

令和6年度第4回和泉市こどもまんなか会議 当日の意見等について

案件①(報告)前回会議 (R6第3回こどもまんなか会議)当日の意見等について :質問・意見なし

案件② (仮称) 和泉市こどもまんなか計画 (案) について

	意見等	当日回答	進捗等
1	<p>(安原副会長)</p> <p>参考資料のやさしい版が小6程度を想定ということだが、小5以下のこどもたち用にはつからないのだろうか。</p> <p>小学校1年生、2年生ぐらいのこどもさんでも、重要な部分はわかるような、そういうものをつくっていただけたら。</p>	<p>検討させていただきたい。内容的に他市の例などを参考に作成した。かなり若い方用のものというのは書き方が難しく、小6を想定して作成させていただいた。研究させていただきたい。</p>	<p>今年度「こどもの権利」リーフレットを作成する際に、より年少のこどもたちにも理解できる方法を検討したい。</p>
2	<p>(会長)</p> <p>感想になるが、今回この計画をつくるにあたって、こどもの意見を聴いたというのは非常に大きなこと。こどもの意見をしっかりと聞いていこうというような姿勢でつくったところは、大きな一歩と思っている。143ページ「計画の進行管理においても、こどもの意見を聴取し適切に反映するよう取り組みます」というところが非常に大事で、進捗を進めていくなから、こども側から見るとどうなのかというところは大事。</p> <p>それにどうアクセスしていけるか。紙で置いていてもこどもたちはわざわざ取りに来ない。SNSの時代にホームページまでたどり着く若者がどれだけいるだろうか。大学生はSNSの情報が非常に多いと思う。こどもや子育て世帯もホームページというよりは、アプリ的なものを使ってというのも考えていただければと思う。</p> <p>進捗管理という点でお聞きしたい。年1回ぐらい進捗管理していく中で、146ページからの表の進捗を中心に確認しながら、数字で表れてこない部分もあるので、その辺について各委員から意見を聞いていくというような形で進めていくのか。</p>	<p>会長の発言通り、そういう形での進捗管理を考えている。資料編に掲載した行動計画に関しては、本編であげた基本施策に係る事業で、数字で指標が得られるものを中心にあげている。</p> <p>こどもに関連する事業ということでは、161事業あがっているが、それをすべて見ることは効率的ではないので、計画書には行動計画という形で、進捗管理に用いる事業をリストアップさせていただいている。こどもまんなか会議では、こちらを中心に管理をしていただけたらと考えている。</p>	
3	<p>(安原副会長)</p> <p>桃山学院大学の卒業生が担任をしている和泉市の小学校で、総合学習の発表の際、わいわい楽しそうにやっていたが、中にはしゃべられない子がいる。どうしても意見を聞き取らないといけないということで、「何でもいいから言って」と強制されるような場になってしまう。意見を表明しないのもこどもの権利として保障してあげてほしいと言っていた。</p> <p>「言っても言わなくても自分はちゃんと大切にされている」ということを経験することで、しゃべることもまた増えてくると思う。意見を言わないことも別にいいという環境づくりがすごく</p>		<p>子ども・若者の意見表明等の取り組みの際には強制とならないよう手法やアプローチに配慮します。</p> <p>また、保護者支援についても引き続き取り</p>

	<p>く大事ということと、子どもを尊重するということは、結局尊重する大人も尊重されていないと難しくなる。それを考えたときに和泉市でどういうふうにご家庭が暮らしているかというところはすごく大事で、保護者の方も安心して自分が尊重された環境の中で暮らしていないと、講演会や研修で知識として聞いても受け止められないと思う。</p>		<p>組んでまいります。</p>
4	<p>(大橋委員) 生活の全てのことに絡んでくるというところで、その中で学校が担う役割はとても大きいと思う。ただ教員もたくさんいて、そこにどれだけ私たちが、少なくとも私が受け取った熱を教員に伝えられるかどうか、どうしていけばいいのかという方法論と、環境を考えるとところがある。教育委員会でそういう機会を持たれるのかどうか、聞きたいと思うのでお願いしたい。</p>	<p>校長会議で、中学生徒会のこどもたちが発表した意見を、小中学校の校長先生にお伝えした。例えば中学校では、北池田中学校に通っている子が、光明台中学校に留学制度を設けたらどうかとか、ルールメイクの話などのプレゼンをしてくれた。それを紹介したら、小学校の校長が「自分の校区の中学校でこんなことをしているのだから、小学校でももっとやっていきたい」という動きも出ている。 この計画を次の校長会議でしっかり紹介した上で、そういう取り組みが広がっていけば、学校も我が事になる。</p>	
5	<p>(橋本委員) 143ページに「計画の進行管理においても、こどもの意見を聴取し適切に反映するよう取り組みます」と記載している。この意見を聴取するのは市役所内の担当課だと思うが、市ではない子どもにかかわる団体とか、そういったところにもアプローチしていけたら、より新たな視点という部分では、こどもの意見をしっかり聴取できるのではと思った。 150ページの「障がい児の健やかな成長のための発達支援」というところで、施策4-①の令和6年度から令和10年度までの就学支援児数というので、211人から200人、200人、200人となっている。特別支援児童といったお子さんは、増加傾向にあると思うが、指標なので数字としては減らしていかないといけないのかと思いつつ、ただ体制として障がいをお持ちのお子さんでも日常生活に満足しているというところなので、そういった支援体制がしっかりできているところであれば、あえてここを無理に減らしていく形でなくてもいいと思った。</p>	<p>こどもの意見の反映に関して、委員のご意見は大変貴重なご指摘。どうしても役所でどうするかという発想になりがちなところがあるので、ご提案のあったような、民間とのコラボレーションがどういう形でできるかというのは、検討したい。 就学支援児数のことだが、こちらは健康づくり推進室が毎年度就学に向けて、年長のときに実際に学校見学を一緒にしたり、お母さんと一緒に相談して進路を決めていたり、お母さん同士のいろいろな交流会に来ていただいたりという</p>	<p>6月庁内連絡会議を開催。こどもの意見反映に関して、庁内の動向把握等の取り組みを行うことを決定しました。</p>

		ことで、実際支援をしている人数で、大体200人ぐらいである。	
6	<p>(若林委員) 資料3の5ページのNo.20で「令和14年度供用開始予定の(仮称)多世代交流拠点施設」というのが計画されていると書かれているが、具体的にどんなものなのかお聞きしたい。</p> <p>それは和泉市で1か所だけということか。</p>	<p>担当ではないので、詳しいことはご説明できないが、富秋中学校校区の中に、人権文化センターや青少年センターなどいくつか施設がある。今、まちづくりの一環で、市営住宅を含め建て替えを市で計画しており、その建て替え後に施設を集約して、新しい施設をつくる。その施設の機能の中で、こどもをはじめ、多様な世代が集まって交流できるような施設の機能を持たせようとしている計画。</p> <p>ここに書いている多世代交流施設というのは和泉市で1か所。</p>	
7	<p>(若林委員) パブコメでは、市の回答としては、きちんとされているが、それが周知されていない現状がある。啓発していきますと書かれているが、どんな啓発の方法が周知されるのか、非常に課題だと思っている。ちゃんと窓口はある。でも皆知らないとそこに行きつけない。ホームページも見られない、見る人が少ないとなると、口コミというか、言い伝えみたいなネットワークができていて、伝わりやすいのではないか。まちの中でお互いホットな関係というか、学校現場でも保育所でも団体の中でもそうだと思うが、それがうまくコミュニティになっていくと、自分でリサーチしなくても、何とか耳に入ってきて伝わっていくということになると思うが、そこが非常に難しいと感じる。</p>		<p>計画でも地域づくりとともに支援を行っていくこととしており、身近な関係の中で情報が伝わるような環境ができるように取り組んでいきたい。</p>
8	<p>(田畑委員) 先ほどのコミュニティのところで、その中の1つで民生委員というのがある。皆さんの相談事、高齢問題あるいは貧困だとCSWにつなぐなどが民生委員の役目。ところが民生委員という名前のご存じの方が多く、何をしているか知らないというのはい多い。我々民生委員でも、もっと知ってもらうにはどうしたらいいのかといろいろやっているが、最近では、なり手不足。それが第1の問題になった。その中でもあまり知られていないところがあるので、我々も何か相談事があったらとアピールしているが、広がっていないというのが実情。</p>		<p>地域づくりのなかで子育て支援を行う上で、民生委員の役割は重要と考えています。</p> <p>ともに地域のこどもへの支援に取り組む中で民生委員の存在が周知されるようにしたいと思います。</p>

9	<p>(内藤委員)</p> <p>外国籍のこどもへの支援ということで、計画に指標の数値が入っている。外国籍のこどもがどんどん増えていて、しっかり大切に対応していかないといけないと思っている。ただ言葉のことや、食事のこと、給食も影響する。様々な置かれる状況によって食べ物の制限や、小学校以外でも同じような対応をされているケースがあるかもしれない。まず言葉でいくと、市のほうで通訳的な対応とか、我々でいろんな国の言葉がしゃべれたらいいが、これについては無理だし、様々な国があるので英語はもちろんだとしても、様々な国の子が今回の事業計画の最終年度の11年頃になると、さらに外国籍のこどもの割合が増えると思う。今から対応を検討いただければと思う。</p>		<p>計画にもあるように日本語指導が必要な児童生徒へのサポートの実施に努めてまいります。</p>
10	<p>(会長)</p> <p>私から1点、89ページ。先ほど私はこの計画でこどもの声を聞くことは大きな一歩だったという話をしたが、もう1つ、今回和泉市の計画を見ていたときに、こどもまんなかの和泉市実現マップやロジックモデル、インプット・アウトプットなど、成果指標をつくる部分にかなり力を入れられたと思って見ていた。それは今の社会の流れでもそういうふうになってきているし、非常にいいことだと思っている。</p> <p>一方で、数値で表す目標ばかり見てしまうと、見えてこない部分が出てくるのではないかと思うので、数値はあくまで結果で、そのプロセスで何をしていくのか、数値にこだわりすぎると問題が出てくると思った。当然そういうことはわかっておられるとは思いますが、一応発言はさせていただきます。</p>		<p>進計画の行管理について、令和6年度実績と令和7年度の取組み計画を今回提案しています。</p>
<p>案件③その他:答申の取り扱いについて、会長に一任 → 異議なし</p>			<p>和泉市こどもまんなか計画の答申案作成にあたって、表現の修正等のうえ提出しました。</p>